

「ぜいたくは敵だ」では戦争は遂行できない



1945年8月、アメリカではブロードウェイで祝賀会が開かれた。それほどの余裕があったのだ (photo by gettyimages)

『風と共に去りぬ』は、1939年製作の映画。歴代の興行収入では第1位である。空前の世界的大ヒットとなった。1940年、第12回アカデミー賞は主演女優賞（ヴィヴィアン・リー）など10部門を受賞した。

米国経済は戦争特需によって人手不足となり、女性も工場労働者として働きに出るなど、女性の社会進出が一気に進んだ。これが米国民の所得をさらに向上させ、戦争が終わるまでの期間、

多くの米国民は豊かで平穏な生活を楽しむことができた。

資源が不足していたとしても、皆で力を合わせれば何とかするという価値観は今でも日本社会の共通基盤となっている。だが、戦争というシビアな世界では、こうした「甘え」は許容されない。加谷 珪一「開戦時、「日米経済格差」はこんなに広がっていた」

(「現代ビジネス」2018.08.15)

【日本とアメリカの国力比較】（データは1941年）

●人口

アメリカは日本の1.9倍

日本（本土） 7220万人

米国 1億3400万人

●国民総生産（GNP≒GDP、国の経済規模）

アメリカは日本の11.8倍

日本 449億円（当時の物価で）

米国 5312億円

*1人あたりGNP、アメリカは日本の6倍ほど。

●粗鋼生産量

アメリカは日本の12.1倍

日本 684万トン

米国 8284万トン

*このほかの物資のアメリカの生産高の日本に対する倍率…石炭9.3倍 石油528倍 鉄鉱石74倍…

（安藤良雄編『近代日本経済史要覧 第2版』より）



ぜいたくは敵だ（ぜいたくはてきだ）は、1940年（昭和15）に日本の官製国民運動である国民精神総動員運動の中で制定されたスローガン。